

様々なある供養の方法について
メリット・デメリットを
比較します。



霊園での供養の方法には、時代のニーズにあわせるように様々なものが存在します。今回は供養の特徴をご紹介しますながらその**メリット・デメリット**を比較していきます。

1.合祀墓（合葬墓）

ご遺骨を最初から他の人と同じ空間で埋葬するのが、合祀墓（合葬墓）です。また、年に1～数回の合同供養を行ってもらえます。個別のお墓と比べ供養は簡素となりますが、供養のされ方にあまりこだわりがなければ、金銭面・管理面での負担を最小限に抑えられる方法です。

メリット

- ・お墓にかかる費用や管理の負担を最小限に抑えられる。

デメリット

- ・個別のお供えやお参りができず、故人の存在が希薄になりやすい。
- ・合同供養のため、個別の供養をしてもらえない。
- ・一度合祀すると、二度とご遺骨を取り出せなくなる。・改葬することができない。

2.樹木葬（公園型）

公園型樹木葬では、故人の名前を刻んだプレート（板石）が設置されるタイプもあります。ご遺骨は樹木の根元に納骨し、お墓参りをするときは、墓標である樹木やプレートに向かって手を合わせます。なお、樹木葬では、一般的に納骨する人数に合わせ「お一人様用（個人墓）」「お二人様用（夫婦墓）」などのタイプが用意されています。

メリット

- ・自分の好きな植物を墓標にできる場合がある。
- ・石プレートを選べる場合がある。
- ・従来のお墓と同じように、個別で埋葬ができる。
- ・一般的なお墓より費用が安い。
- ・永代供養のため後継者がいない。

デメリット

- ・季節によって景観が変わることがある。
- ・合祀と比べると費用が高い。
- ・一定の期間を過ぎると合祀される場合がある。



個別安置をされる期間はあらかじめ決められています。各霊園のプランによって異なりますが、7回忌、33回忌などのタイミングで設けられていることが多いです。個別安置の期間を過ぎると合祀（合葬）されます。一度合祀すると二度とご遺骨を取り出せなくなり、合祀後の改葬もできません。

3. 永代供養付き個別墓

近年「個人でお墓に入りたい」「夫婦のみでお墓に入りたい」といった様々なニーズに合わせた個別墓が登場しています。

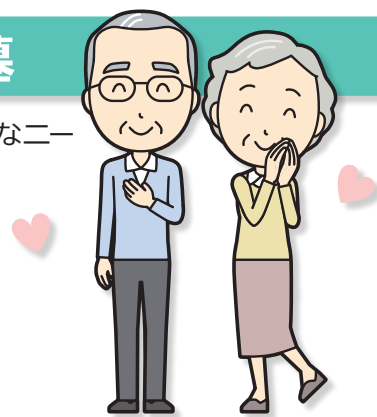
メリット

- ・一般的なお墓と比べ小さいため、費用がやや安い。
- ・永代供養がついているので、無縁仏になることがない。

デメリット

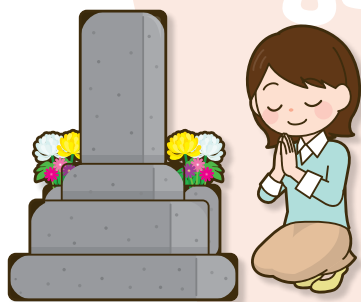
- ・墓石のデザインがあらかじめ決められている場合がある。
- ・合祀や樹木葬と比べると費用がやや高い。 ・一定の期間を過ぎると合祀される場合がある。

これらのお墓は基本的に一代限りのものとなり、一定の期間を過ぎると合祀される場合があります。



4. 永代供養付き一般墓

個別の永代供養を選ばれた方の中には「子供がいらないから…」「子供がいるけど、負担をかけたくないから…」という事情で、一般的なお墓を諦めた方もいらっしゃると思います。しかし、継承者の有無や子供への配慮を理由に一般的なお墓を諦めなくてもよい方法が実はあります。それが「永代供養付き一般墓」です。



メリット

- ・いわゆる一般的なお墓を持つことができる。
- ・そのため、自分が望む形のお墓を建てることできる。
- ・永代供養がついているので、無縁仏になることがない。
- ・お墓を守る人がいれば、その後も継承できる場合がある。

デメリット

- ・合祀、個別永代供養と比べると費用がやや高い。

お墓を守る人がいなくなったり、事前に決められた期間が経過した後は、霊園側でお墓を撤去・整地し、ご遺骨を永代供養墓に改葬してくれます。

使用期間に制限がない場合は、子や孫の代までもお墓を継承することができ、万が一跡継ぎがいなくなった場合でも、霊園側で永代供養墓に改葬してもらえるので、無縁仏になる心配もありません。

最近の霊園では、永代供養に対応したサービスが増えてきています。つまり「これから建てる一般的なお墓の多くは、跡継ぎの心配がなくなっている」ということができるのではないのでしょうか。

供養の気持ちを次世代につなぐお墓を

お墓を建てる意味には、故人の成仏を願うという宗教的な理由がまずあげられます。今回ご紹介した合祀や個別永代供養でも、故人の成仏を願うことはできるかもしれません。

ただ、お墓を建てる意味はもう1つあります。心の拠り所を持ち、供養の気持ちを次の世代につないでいくということです。

「お墓は建てたらそれで終わり」ではなく、今を生きる家族同士の結び付きを深めるためにも重要な役割を果たしていきます。ぜひ供養の気持ちを次世代につなげられる方法を選んでみてはいかがでしょうか。